

読書感想文の書き方

夏休みの宿題としても定番の読書感想文。

「何をどう書いたらいいかわからない」というときは、次の五つのヒントを参考にしてい

ヒント1 好きな本を選ぼう

どんな本が好きかな？ 冒険の物語、科学の本、動物の出でくる物語、実際にあった出来事、友情のお話、家族のきずななどを書いたお話、すごいことをやりとげた人の伝記、歴史の本……どんな本でも感想文は書けるよ。好きな本を選んで読み始めよう。(マンガや工作の本はだめだよ！)

ヒント2 読みながらメモをとろう

一度読んだ本でも、もう一度読みながら①②③のメモをとろう。心が動いた所には、しおりもはさもう。
メモ① 主な登場人物の名前／どんな人か／何をしたらか／自分と同じところ・ちがうところ
《例》ドロシー／主人公の女の子／カンザスでくらす・竜巻で飛ばされて、オズの国に行く／自分より勇気がある
メモ② 場所や国の名前／どんな場所か／自分の身の回りと同じところ・ちがうところ
《例》カンザス／灰色の草原が地平線まで広がっている・竜巻が多くて家には地下室がある／自分の家の周りには、たくさん建物があるし、竜巻も見ることがない。
メモ③ 自分の心が動いた出来事・登場人物の言葉や行動／どう思ったのか／それはなぜか
《例》ドロシーの言葉「自分の家がどんなにみじめで灰色でも、生身のからだをもったわたしたち人間は、ほかのどんな国よりも、自分の家に住みたがるものなのよ。」／そんなにキツパリ言えてすごい！／自分だったら、オズの国にずっといたくなりそう。でも、やっぱり家族のところに帰りたくなるかもしれない。

ヒント3 骨組みを作ろう

メモをもとに、感想文の骨組みとなる段落①～⑤をノートや下書き用のプリントに書いてみよう。
① 書き出し(どうしてこの本を選んだか・この本を読んで自分のもった一番強い思いなど)。
② あらすじ(いつ／どこで／だれが／なにをしたか、簡単に短くまとめよう)。
③ 自分の心の動き(この出来事におどろいて、こんなふうに思った・この言葉が胸に刺さったなど)。
④ なぜ心が動いたのか(自分ならきつとあきらめてしまうのに、○○はどんなにうつろくてもあきらめなかったから・自分も似たような経験をしたことがあり、○○の気持ちがよくわかるからなど)。
⑤ 本から学んだこと(○○が、どんなに大切なことかわかった・自分も○○できるようにになりたいなど)。

ヒント4 骨組みをふくらませて書いて

骨組みの文をふくらませながら、下書き用の原稿用紙やノートに、感想文を書いてみよう。
ふくらませるコツ・自分の今を書く(わたしが、今がんばっていることは……／ぼくの家は五人家族です)……
・登場人物と自分をくらべる・自分の気持ちをくわしく書く(ぼくは思わず大きな声で笑ってしまった)。
・本に出てきた地名や作者のことを調べて書く(作者のL・F・バウムという人は、アメリカ中をあちこち……)

ヒント5 題名は最後に考えよう

下書きが出来たら、声に出して読んでみよう。字のまちがいや、文のおかしな所があったら、赤ペンなどでなおそう。最後に文の内容にあった題名を考えよう。あとは清書すれば完成だ！

